

1. 題材名

「心でとらえたイメージ ～14歳の自分～」(全4時間)

A 表現(1)ア(ア)(2)ア(ア) B 鑑賞(1)ア(ア)イ(ア) [共通事項]

2. 題材について

(1) 生徒の実態

2学年の生徒は、全体的に明るく活発であり、何事においても真剣に取り組む生徒が多い。美術科の学習でも、課題の内容や方法がわかると、熱心に取り組む姿が見られる。進級して新しい学級となり、林間学校への取り組みを通して集団づくりを進めているところである。

表現の学習では、設定されたテーマを理解し、用具を工夫して用いながら取り組むことができる。鑑賞では、自分の言葉で記述したり、友だちの意見に興味を持って聞いたりすることができる。このような実態をふまえ、試行錯誤を繰り返しながらよりよい表現を追究する態度を身につけさせたいと考えている。

表現については、限られた色で混色する活動を通して色の特徴について整理したり、山梨県を象徴するものを組み合わせたキャラクターの制作を通して、形の単純化や色の持つイメージについて注目し、作品に表したりしてきた。

(2) 授業について

この授業は、今の自分が取り組んでいることに着目し、そのとき抱いている感情を主題として形や色彩を発想、構想し、絵の具を用いて表現するものである。まず、今、自分がどんなことを感じたり考えたりしているかについて注目させる。次に、自分の感情を色や線、塗り方で表現することをくり返し、いろいろな感情の表現を集める。そして、最後に、表現した感情を切ったり組み合わせたりして再構成することを通して、今の自分を表現する。

本題材は、普段生徒が取り組んでいることや感じていることをテーマとして設定することで、主題を生み出しやすいと考える。また、色や線、塗り方など多様な表現ができる絵の具を用いることで、より自分のイメージに近づけるよう試すことができる。さらに、最後に再構成する機会を設定することで、生徒の言葉にできない感情を表現できたという実感が持ちやすいと考える。

指導にあたっては、今、自分が取り組んでいることやそのとき感じたり考えたりしていることについて注目できるように、ワークシートを工夫する。また、表わしたいイメージを表現できるように、試行錯誤する時間を十分に確保する。さらに、多様な感じ方に触れることができるように、相互鑑賞の機会を設定する。

3. 全体研究と関わって

全体研究では、今年度から『新たな世界を主体的に創造する生徒の育成～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～』という主題の基、研究を進めている。

これを受けて美術科では、次のような生徒を目指したいと考える。ひとつは、身の回りの形や色彩などの働きに気付いたり、よさや美しさを感じ取ったりすることができるような、造形的な視点をもった生徒である。もうひとつは、表現と鑑賞の指導の関連を図る中で、造形的な視点を基にどのような考え方で思考するかを生徒自身が理解し、自覚できることである。

そのために、題材の指導計画を見直し、造形的な見方・考え方を軸にして、育む資質能力を明らかにすることとする。また、造形的な見方・考え方を働かせた学びによって育成された資質・能力を見取ることができるような手だてを工夫することとし、今年度は、題材構成とワークシートに重点を置いて取り組む。

4. 学習指導要領上の位置づけ

A 表現

- (1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。
- ア 感じとったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組み合わせなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
- (2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。
- ア 発想や構想したことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。

B 鑑賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。
- ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。
 - イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - (ア) 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎと自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

〔共通事項〕

- (1) 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること
 - イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

5. 題材の目標及び題材の評価規準

(1) 題材の目標

自分の感情を基に主題を考え、形や色彩を発想、構想し、絵の具で表現することができる。

(2) 題材の評価規準

美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
経験したことなどを表現することに関心を持ち、主体的に主題を生み出そうとしている。	経験からイメージを膨らませたことなどを基に主題を生み出し、発想や構想を練ることができる。	材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考え、見通しをもって表現している。	造形的なよさや美しさ、表したいイメージを基にした主題と創造的な表現の工夫などを感じとり、自分の価値意識を持って味わっている。

6. 題材の指導計画（全4時間）

次	時数	学習活動	評価				評価規準	評価方法
			関	発	技	鑑		
第一次	4	<ul style="list-style-type: none"> 「14歳の私」を表現することを学ぶ 今の自分が感じていることや考えていることなどを書き出す 	○	○			<ul style="list-style-type: none"> 自分について掘り下げて考え、書き出すことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 活動観察 発言 ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> 書いたことを手がかりに、形や色彩で表わす 	○	◎			<ul style="list-style-type: none"> 主題を基に、イメージを膨らませて構想を練ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 活動観察 発言 ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> 抱いているイメージにより近づけるよう、色や線、塗り方などを試行錯誤する 	○	○	◎		<ul style="list-style-type: none"> 形や色彩を工夫しながら制作することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 活動観察 作品 ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> 絵の具で表現したものを持ち寄って再構成する 制作した作品について振り返る 	○	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達作品を見て、表現の工夫を感じることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 活動観察 作品 ワークシート 活動観察 ワークシート

※全4時間中、1時間目を導入、2時間目（本時）および3時間目を展開、4時間目をまとめとする。

7. 本時の授業

- (1) 日時 平成30年6月30日（土） 10:10～11:00
- (2) 対象 2年3組生徒 男子 20名、女子 20名 計40名
- (3) ねらい
 - ・前回表現したものを生かし、形や色彩、表現方法を工夫することができる。
- (4) 育てたい「4つの力」

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
発揮する力	経験したことなどを表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出そうとすることができる。	経験からイメージを膨らませたことなどを基に主題を生み出し、発想や構想を練ることができる。	材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考え、見通しをもって表現することができる。	造形的なよさや美しさ、表したいイメージを基にした主題と創造的な表現の工夫などを感じとり、自分の価値意識を持って味わうことができる。
フレーズ	自分を見つめる	イメージを表現する	形や色彩で表わす	表現の意図を感じる

(5) 本時の展開

時間	○学習活動 ・活動の内容, 指導のポイント及び留意点	評価				指導上の留意点
		関	発	創	鑑	
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習内容について知る ・前回, 表現したものを生かし, 形や色彩, 表現方法を工夫すること ○本時のねらいを知る。 ・自分の抱いている感情のイメージを表すために, 形や色彩, 表現方法を工夫することができる 	○				<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容やねらいについて簡潔に伝えることで, 生徒自身が理解して取り組むことができるようにする ・「表現方法を工夫しよう」と板書する
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ○前回表現したものを見直す ○前回表現したものを手がかりに, より自分の感情が表現できるよう, 形や色彩で工夫して表わす 	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな感情を表現しようとしたか, またそれが十分表現できたか振り返ることができるように, 形や色彩, 表現方法などの視点に注目させる ・より自分のイメージに近づけるよう, 机間指導の際に, 表現したいことや工夫したことについてやりとりを行って思考を深めるようにする
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ ・数人の生徒に感想を聞き, 学習を振り返る ・ワークシート, 制作物の提出 	○			○	<ul style="list-style-type: none"> ・考えや感情を表現する中で考えたことや気づいたことなどについて全体で共有できるようにする